

平成27年度

事業報告

社会福祉法人 やまなみ会

インターワーク

就労継続支援B型事業

生活介護事業

目次

1、はじめに	1
2、利用者状況	1
3、福祉事業報告	2～4
4、就労支援事業報告	4～9
5、防災関連	9
6、職員処遇	9～10
7、その他	11
巻末	添付資料①

平成 27 年度 事業報告

社会福祉法人 やまなみ会 インターワーク

1、はじめに

利用者の方々の高齢化が進み、作業能力低下や持病悪化などにより就業がままならない利用者の方も出ているため、将来のことを見据えたプラン作りをした。当施設においても 65 歳以上の利用者の方が、3 名在籍し、内 1 名の利用者の方に対して介護保険の申請をするなどして、関係施設、市町村へ協力を仰いだ。出来るだけ長く、無理なく就労が継続できるための支援を考えながら本年度も利用者の体と心の健康そして経済的な安定を目指し活動致した。

2、利用者状況（平成 27 年 3 月末現在）

現在の利用者数は、以下のとおりである。

生活介護事業は、就労 B 型より移行し 1 名増員となる。新規利用においてくわ支援センターより 1 名紹介により利用を開始する。本年度も就労 B 型・生活介護において定員を満たすことが出来なかった。

又、本年度は、就労 B 型において退所者は、3 名あり、退所理由は以下の通りである。

- ・自身の意に沿わない為
- ・他の施設を利用したい為
- ・長期入院の為

施設の年間平均利用率は、就労 B 型では、平均 80.73%、生活介護では、67.35% となり施設全体において 78.13% の数字となった。

更なる利用者獲得に向けた努力が必要となる結果であった。

・利用者状況

サービスの種類	定員数	利用者数	利用可能数
就労継続支援 B 型	25 名	20 名	5 名
生活介護	6 名	5 名	1 名

・利用実績状況

H 27 年度利用者実績報告書は、参考資料①を参照のこと

3、福祉事業報告

①個別サービス計画の策定

年度初めにケース担当職員が、アセスメントを行い、ケース会議にてサービス管理責任者の指示の基に個別支援計画を作成し、モニタリングを行い支援計画の見直しを行った。

②利用者の支援記録に関すること

随時、関係職員やケース担当職員毎日記入を行い、記録管理を行った。

③事務手続きに関すること

ご本人の依頼のもと各種受給者証を始めとする事務手続きの代行を行った。

④家族及び関係機関との連絡に関すること

必要に応じて、家族及び関係機関等に連絡や相談を行った。病気の為の緊急連絡や帰省時の連絡調整など本人様に代わって行った。

⑤医療に関すること

- ・年1回の健康診断の実施（全利用者実施）

- ・通院送迎支援

阿蘇やまなみ病院・坂梨ハートクリニックへの通院送迎や緊急時の病院送迎を行った。又、家族の支援が困難な利用者の方には、入退院時の準備や送迎、関係各位への連絡の支援を行った。

- ・施設内診療

阿蘇きずな歯科医院・坂梨ハートクリニックによる訪問診療の実施

- ・各種予防接種

インフルエンザ予防接種の実施（対象：全利用者・職員）

- ・服薬管理

自己管理の苦手な利用者を対象に助言や声掛けを行い、毎日の服薬管理を行った。

⑥食事

個々の体調の状況や好みに応じて変更メニューを実施した。

又、月1回のお誕生日会メニューの実施や施設農園にてみんなで育てた野菜と地元でとれる山菜を使用したメニューを行うことで、残食の減少や給食費のコストカットに努めた。

⑦買い物支援

月数回、希望者を対象に買い物支援を実施した。阿蘇市内のスーパーや衣料品店等依頼に応じて送迎した。

⑧苦情解決に関すること

利用者の方々からの要望・苦情に関することは、傾聴・共感・受容に心がけ迅速に処理を行い、内容に応じて苦情解決責任者の指示を仰ぎ、対応した。

又、再発防止に向けて、全職員でのマニュアル作りに取り組んだ。

⑨H27年度施設実施行事

平成27年 4月	・誕生日会
5月	・誕生日会
6月	・誕生日会
7月	・七夕祭り ・くんわ夏祭り参加 ・誕生日会
8月	・誕生日会
9月	・誕生日会
10月	・誕生日会 ・販売会見学
11月	・誕生日会
12月	・クリスマス会 ・誕生日会
平成27年 1月	・初詣 ・誕生日会
2月	・節分 ・誕生日会
3月	・誕生日会

⑩福祉事業収入について

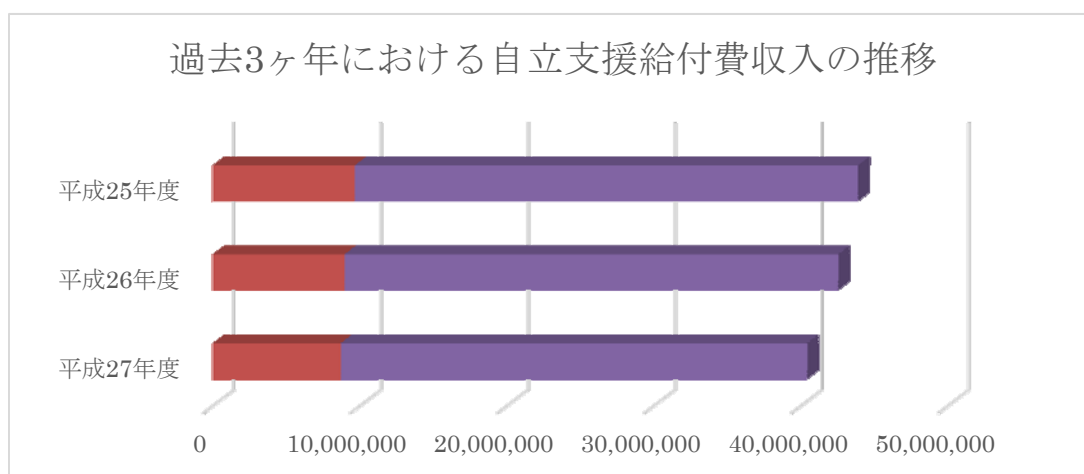
自立支援給付費の基本額の改訂により各加算額の減額で、本年度の収入額が減少となった。食事提供加算や処遇改善加算などの減額が要因ある。

物価動向によって報酬加算が改訂されるため今後も引き続き給付額収入減が予想される。

インターワーク全体における利用稼働率が、100%を満たさない為減収となっている。利用者の方々の持病の悪化や高齢化での体力の減退もあり、フル出勤は、不可能となっている。下記は、自立支援給付費の比較である。

インターワーク 3ヶ年収入推移 【平成25年度～平成27年度】

	介護給付費	訓練等給付費	自立支援給付費合計
平成27年度	8,701,060	31,705,991	40,407,051
平成26年度	8,955,840	33,567,160	42,523,000
平成25年度	9,653,410	34,223,022	43,876,432



4、就労支援事業報告

①重点目標

- ・本年度も利用者の方々のニーズに沿った作業支援に心掛けた。
- ・収入と支出のバランスを考えて、必要経費を使った。
- ・体調不良による遅刻早退欠勤をなるべくなくすため、体調のすぐれない利用者方には、作業を軽減し、無理なく継続できるよう支援した。

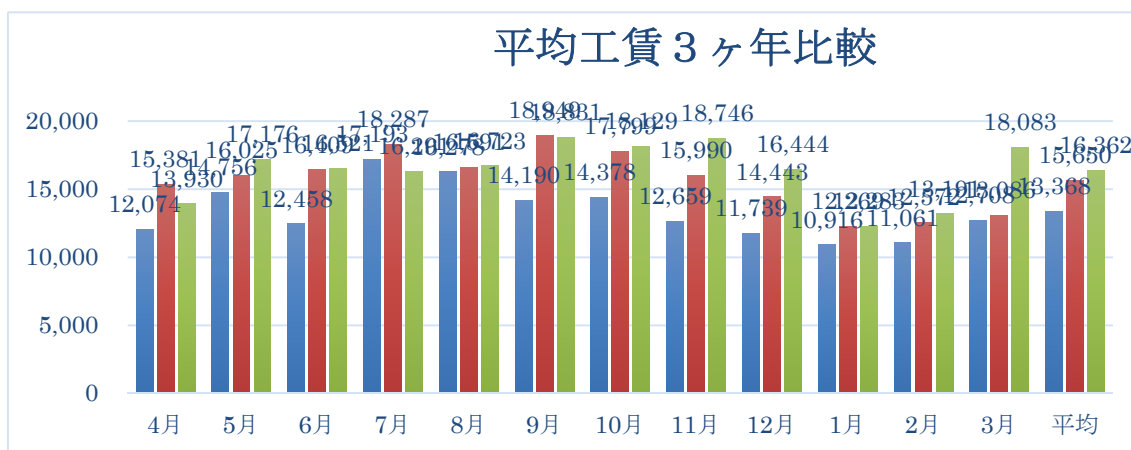
- ・時間に対する認識が不十分な利用者の方には、作業中・休憩中のメリハリをつけた活動支援を行った。
- ・身だしなみが習慣付く様、朝礼・終礼や気づいた時に声掛け等の支援をした。

②利用者工賃

平成 27 年度目標工賃（就労 B 型） 16,000 円
 平成 27 年度工賃実績（就労 B 型） 16,362 円（月平均）

利用者工賃は、目標工賃の 16,000 円を上回ることができた。

- ・最高工賃支払額・・・ 61,125 円
- ・最低工賃支払額・・・ 3,585 円



③珈琲事業

- ・ドンゴロス

作業場の整理整頓を徹底し、作業効率の向上に努め、無駄な時間が減るよう器具・材料の保管場所も明確にし、時間の短縮にもつながった。また、利用者の作業人数の増減により、生産数が減少傾向にもなった。

委託販売では 3 件の取引先が新規で入り、販売売上も上昇し、昨年引き続き定番サイズのバッグをコンスタントに販売できるようになった。無駄なく材料を使い、コストの削減に努めながらクオリティの高い商品づくりができた。しかし、年間を通しての委託事業（CCS 珈琲・岡田珈琲等）の発注件数は減少傾向になってきた。また、ガーゼマスクやランチョンマットなどの小物の製作にも力を入れ、手軽な価格でお客様に提供することでドンゴロス製品の PR につなげることができた。

・珈琲製造・販売

お手軽に飲めるワンドリップタイプの珈琲を中心に製造、販売を行った。

ミル済のみの珈琲豆より需要も多く、贈答用の商品として高い支持を得てきた。

夏季にはリキッドタイプのアイス珈琲を委託製造し、御中元ギフトや委託店舗での販売を行った。さらに贈答用ギフトでもラッピングを充実させ売り上げ向上に努めた。また、冬季のバレンタイン企画では珈琲ビーンズチョコを取り入れ、御歳暮にはドリップ珈琲を中心に用意し、年間を通してのギフト販売を展開してきた。

官公庁からの注文ではイベント等の景品にと、ワンドリップ珈琲やコースターの詰め合わせを用い、顧客のニーズに合わせた商品の提供ができた。その一方では、生産数の上昇に追われ、検品ミスや期限切れ品の混ざりこみなどによるクレームも数件あった。

④加工事業

・委託事業

現在、お菓子の香梅様と三九商会様の委託を中心に作業を行っている。

製函作業は、年々生産数が落ち込み、売上を伸ばすことが出来なかった。

三九商会の本田技研向け梱包資材加工は、新規の製品発注を受け、生産数を伸ばすことが出来た。又既存の不織布以外に新タイプの不織布の受注が決まり来年度から生産が始まる。

担当作業者が、どの作業もできるように作業習得向上を進めた。作業の進捗状況を確認しながら、無駄のない作業時間作りをした。

職場内の5S活動を重点におこない作業環境の充実に努めた。身だしなみの徹底と不良削減を進めた。

⑤生産事業

・地域実習

実習先(顧客)の増加及び作業の多様な依頼により、昨年度は厳寒期(1月と2月)の収入がわずかであったのに対し、年間を通して安定した収益を上げることができた。

理由としては、雨天に左右されないハウス内作業(花苗・トマト)や請負作業(大麦若葉・にんにく)が加わったことが大きい。

また作業員の増員や各現場での作業時間の要望に応えられるように対処してきたことにより、顧客より更なる作業依頼が増えている。限られた人員の中でそれらの要望に応えるのは苦慮する現状であり、いかに利用者のスキルアップを図っていくかが今後の課題である。

こうした実習など施設外労働において、あいさつや礼儀作法、仕事に対する態度や心構えなどを徹底して指導してきた。それに応えた利用者の頑張りが指名依頼を増やしている。仕事に対する意識や意欲はここ数年の間に明らかに変わってきたと感じる。

・ブラックベリー栽培について

平成27年度はアイスクリームやジャムといった加工製品が季節ごとのギフトの注文や販売会での売り上げが好調で原材料が不足する事態となった。

その中でもジャムについては、コーヒー事業担当の下でギフト商品として味の改良等の試みを行ったことが売り上げの増加へとつながった。

当施設畑のブラックベリーは新規に、譲り受けた100株ほどの樹木の植え付けを行った。現在は追肥を行い成長を待つところであるが、大量の収穫を得るまでにはさらに株を増やしていく必要がある。積年の課題である土壌改良についてはかなり進んできており、更なる整備を進めているところである。

・とうきび茶について

度重なる鳥獣被害(カラスの大群)に見舞われ、二度植え付けをやり直すことになった。収穫時にも被害があったため早期に収穫を行い、ある程度の原材料を確保することはできた。

販売の面では、これまでの商品の内容量を見直しグラム数を減らして販売価格を抑えることで、気軽に購入してもらえるように工夫を行った。

・神楽苑トイレ清掃について

朝夕の清掃作業は利用者がローテーションで行っており、施設外作業と同様にあいさつや作業意識の向上に力を入れてきた。日々の作業の中で利用者の中にも、自然に役割分担や作業の優先順位がわかってきている。おかげで作業に対する苦情もほとんどなくなった。

・その他

冬季の委託事業として、今年度も引き続きグリーンファーム波野様よりトマトハウス用のひも巻き作業を受けている。納期を早める努力を行ったことで前年度の倍の作業依頼があった。施設外実習の少なくなる1月と2月にこの作業を充て、結果的に年間を通して作業が途絶えることがなかった。

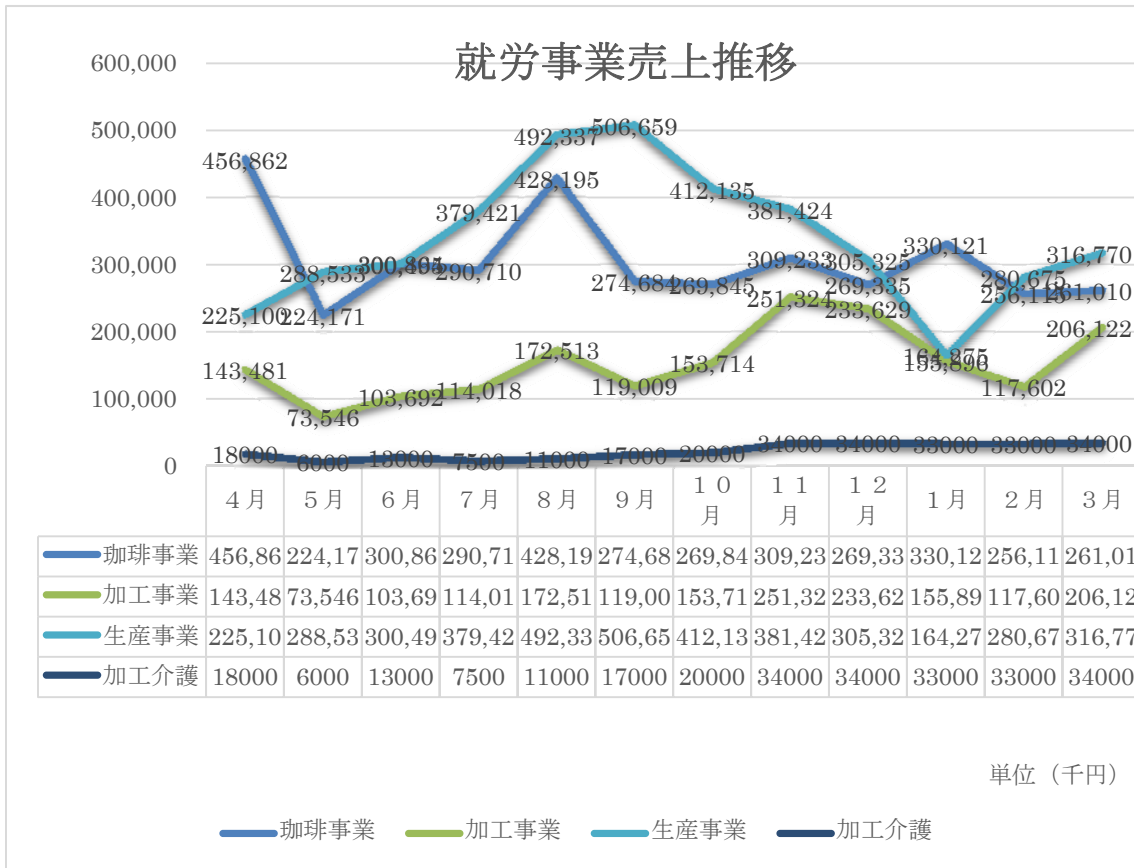
⑥販売活動

委託販売の委託件数の増減に変化はなかったが、店舗別において売れ行きに格差が見られた。商品の入替やバックのバラエティさを増やし売り上げ増加につながった。販売会では、バック珈琲に限らずブラックベリージャムやアイスクリームの販売も強化させ売り上げにつなげた。よってジャム、アイスクリームとも好評のうちに完売することが出来た。

バレンタイン企画として、チョコビーンズの販売を行ない、商品完売をすることが出来た。

販売会等でお客様よりその場で珈琲の飲み比べがしたいとのご意見があり、今後は、販売会場でミル、ドリップができ、多種の試飲がその場でできるように検討していきたい。

平成27年度各事業における売上額は、以下の通りである。



・ H 2 7 年度販売会参加一覧

イベント名	期日	場所
熊本県障がい者スポーツ大会販売会	5月8日	県民総合運動公園
食と健康フェア-2015	5月30日・31日	熊本市動植物園
ほたるの会	6月27日	なでしこの里体育館
阿蘇マルシェ	7月5日	ふれあい水辺公園
くんわの里夏祭り	7月18日	くんわの里グラウンド
なでしこの里夏祭り	7月25日	なでしこの里グラウンド
小国ふくし夏祭り	8月1日	J A阿蘇小国郷集出荷場
第21回くまもと物産フェア	10月31日・11月1日	グランメッセ熊本
障がい者福祉施設販売会・商談会	1月7日	熊本県庁地下大会議室
第4回ほっとは一とマーケット	1月16日	びぶれす広場
第24回障害福祉施設販売会	2月19日～21日	ゆめタウン光の森

5、防災関連

再発防止マニュアルの徹底を行い、防災対策の意識向上に努めた。

- ・ 集会等での意識向上
- ・ 防災マップの策定
- ・ 避難訓練の実施
- ・ 再発防止に向けたマニュアルの策定
- ・ 避難通路の確保
- ・ 消火設備の点検
- ・ 機械等の定期点検及び使用前点検の義務
- ・ 休憩室等のたばこの後始末についての指導・支援
- ・ 退勤時の点検
- ・ 防災訓練を2回実施

6、職員処遇

施設業務に関連した専門知識の向上、習得を図る為授産施設協議会及び社会福祉協議会が主催する各種講習・研修会へ参加した。又、社会福祉に関する法令等に関する施設内職員研修も行った。

・ 主な参加研修会及び講習会

期日	参加研修及び講習会	参加人数
5月21日	法人内会計事務研修（くんわの里）	2名
6月6日・7日	施設内職員研修会（福岡・大分施設見学）	7名
6月16日	法人内会計研修（くんわの里）	2名
7月22日～24日	全国社会就労センター大会（長崎）	2名
8月31日	法人内会計事務研修（くんわの里）	2名
8月26日	退職共済事務研修（メルパルク熊本）	2名
9月15日	社会福祉法人労務研修会（メルパルク熊本）	2名
10月20日	社会福祉法人会計実務研修会（管理者）（メルパルク熊本）	1名
10月27日	社会福祉法人会計実務研修会（初級）（メルパルク熊本）	1名
11月17日	社会福祉法人会計実務研修会（中級）（メルパルク熊本）	1名
11月24日	社会福祉法人会計実務研修会（上級）（メルパルク熊本）	1名
11月27日	福祉サービス苦情解決研修会（ホテルテルサ）	2名
12月1日	第1回工賃向上支援研修会（KKRホテル）	1名
12月9日	成年後見人制度利用促進研修会（KKRホテル）	2名

2月12日	社会福祉法人労務研修会（グランメッセ）	1名
2月16日	第2回工賃向上支援研修会（KKRホテル）	1名
2月25日	苦情解決第三者委員会研修会（メルパルク熊本）	3名

7、その他

①施設見学

市町村や相談支援センター等を通じて、施設見学の依頼があった。

又、支援の向上を目的とした他施設からの施設見学や支援学校の教職員研修で当施設見学をされ、就労事業活動を学ばれた。

②職場体験実習受け入

本年度は、11月11日～13日の3日間、竹田南高等学校より1名就労B型への実習を行った。

製函作業を中心に作業をした。職場でのマナーや挨拶をきちんとできるようになった。

③情報の開示と個人情報保護

施設運営での透明性とサービス事業公開の為ホームページにて公開する。

又、業務上知りえた情報は法令に遵守し適正に管理し、利用者以外の第三者の請求に対しては、利用者本人へ確認し、同意のもと情報を提示した。

④職員について

12月の末日にて、定年退職者1名あった。

職員募集により、1名中途採用を行った。職員会議において各事業の担当者
の入替、ケース担当の変更を行った。